

情報文化学会 第8回全国大会発表要旨 (2000年(平成12年)11月18日:聖学院大学)

インターネット社会と宗教(2)

—— 増加する情報犯罪に対するある神社の試み ——

社会情報システム研究所代表

(明治大学兼任講師) 三好賢周

〔1〕はじめに

現在の高度情報社会は「インターネット」に表現される。インターネットは、1960年代にアメリカ国防総省が戦略システムとして考案したコンピュータネットワークであり、後に利用目的を限定しない「商用インターネット」として1990年代に世界中に広まったものである。今、「インターネット」を耳にしない日はないが、このシステムを可能ならしめたのは、約半世紀前に軍事目的用の計算機として開発された、コンピュータを中心とする科学技術の進歩にほかならない。一方、この情報ネットワーク社会がインターネット化されるに従い、コンピュータ管理社会と従来の人間主体情緒社会とのギャップが種々の歪を生むことになり、混迷を呈している。なかでも、最も厄介なものが情報犯罪であろう。しかも、インターネットを利用する誰もが罪悪感なしに、時には無意識下に犯してしまう要素を含んでいるが、重大な被害を及ぼすのは、悪をもくろむ「ハッカー」(クラッカー)である。その手口は、ますます増加、巧妙化している。

このような世情に鑑み、祇園祭を主宰する八坂神社(祇園社)が『コンピュータ御守・CD-ROM』を創作した。

これに先だち助言をもとめられた折「この御守は八坂神社であるからこそ意義があり、インターネット時代に即した神社の在り方を世に問う時機である。」と、パイオニアたらんことを説いた。

ところが、神社界では既成概念に反するとして賛同が得られず中止となった。

そこで、インターネット社会の特異性を明らかにし、『パソコン祇園御守』と日本固有宗教「神道」との整合性を情報文化視点より考察する。

〔キーワード〕

① 世界国家 ② 行く社会と来る社会 ③ 聖と俗 ④ 二人一体 ⑤ 機能神

結 論

『パソコン祇園御守』は、日本固有の宗教「神道」の概念を具現化したものであり、インターネット社会において多大な悪影響(被害)を与える情報犯罪の発生防止に役立つことを意図している。

※ 条件等整えば、『パソコン祇園御守』の実演提示を行いたい。

〔2〕インターネット社会の特異性

コンピュータのネーミング由来や、歴史、仕組み、働き等については省略。

(1) 世界国家

社会経済の活性化にともない、この便利になったコンピュータが、私たちの生活のあらゆる面に利用されることになりコンピュータ同士を結び合わせる事(ネットワーク化)によって、お互いにやりとり(情報の伝達・コミュニケーション)が可能となった。このネットワークが整備されることにより、いろいろな情報を発信・受信

ができる（インターネット）社会すなわち高度情報社会の出現で、現在の姿である。

この従来と全く違った新しい社会は、国や組織というまでもなく、一個人がパソコンと通信回線があれば場所や時間を問わず、どこへでも自由に移動（情報の発信・受信）が、いながらにして可能なのである。

この高度にネットワーク化された情報社会は、物理的国境のない空間を移動する新しい概念の世界国家と考える。その結果、誰でも情報を知る（得る）ことができ、情報の自由化、平等化、共有化をもたらした。と同時に、各個人の行動や結果においての自己責任が問われることを銘記しなければならない。

(2) 行く社会と来る社会 [F i g - 1] [F i g - 2]

日常生活においては、ガス、電気、水道、交通機関など、便利で快適な環境でおられるのはコンピュータの恩恵である。この威力を最もよく実感している一つは、銀行のキャッシュカードによる現金自動支払機の利用（オンライン・リアルタイム処理）であろう。コンピュータシステムが単なる情報処理（計算）の役割から社会活動の中心的存在—コンピュータ管理社会になったのである。

それに対して、従来は人間の感情が主たる（生理的・精神的バランスを保つ）—人間中心情緒社会であった。

この異なる二つの社会形態は次のように考えられる。

① 行く社会（現実社会）

身体が居合わせることを前提とした人間関係

従来の社会活動で実体がある。

② 来る社会（仮想社会）

メディア空間上の記号を通じた人間関係

インターネット（サイバースペース）での社会活動で、電子が自分の代理人として出向くので自分（実体）は居ながらにして事を処理する。

さらに、①と②はそれぞれ次のような特徴をもっている。

①は「顔のある社会」で、^(イ) 1 : 1、^(ロ) フェイス to フェイス

これに対して②は「顔のない社会」で、^(イ) 1 : 多数、^(ロ) 解放性、^(ハ) 匿名性を併せ持つ為、^(ニ) 多重人格になることが可能となる。

これ故に、インターネット犯罪の多発をみることになる。

〔3〕インターネット犯罪と犯人像

(1)インターネット犯罪 (2)ハッカーとクラッカー (3)犯人像の特徴 (4)性善説と性悪説は頁制限により省くが、犯人像を「キャリア・対外動機・性向」について調べてみると、注目すべきは、全ての犯人像に倫理観の欠如がみられることである。

〔4〕宗教としての神道の意義

(1) 宗教の役割

宗教は、人間の道徳性を守る規範であって、社会で未確定な問題に直面した場合にその人の心の支えとなり、個人の心に平安を呼びさます源泉と考えられる。

また、人々の心の慰めとなり、社会の目標に心を向けさせ、精神の高揚と自己認識のための条件を与えてくれる。

そして、社会の統制を支持し、その社会での既成の価値や目標を強調し、さらに個人の欲求不満を克服する方法を与えることにより、統一と安定を強めていくものであろう。

その一方で、進歩を阻む障害物であったり、狂信主義をうみ、無知や迷信などを生み出し、社会の秩序を乱すことも歴史の示すところである。

簡潔にまとめると次の3点である。

- ①人間が、全体的な生きがいを見いだし生活を究極的に意味づけ、価値づけようとする仕方。
 - ②人間の危機的状況における適応の様式であって、究極的な不安、脅威を処理しようとする仕方。
 - ③共通の観念と行動を通じて集団の連帯性を強め、その統合を促進する役割。
- とまれ、宗教が社会活動の中で重要な役割を担っていることは紛れもない事実であろう。

(2) 神道とは何か

現在、日本には約 400 の公認宗教団体があるといわれ、公認以外の民間信仰を含めると、この数倍にもなろう。

日本は古来より、諸外国より数多くのものを情報として受容れ、独自の文化を形成してきた。

宗教については、日本特有の信仰形態（神道）を4世紀末には整えていたと思われる。

その後、16世紀のキリスト教伝来に至るまで、大陸より、例えば、儒教・仏教・道教・陰陽道等々もたらされ、これらとのシンクレティズムにたつものが、今日の「神道」と考える。京都の祇園祭も同様である。（このことは、以前に発表済）

例えば、『古事記』や『日本書紀』に登場する岩戸神話、穀物起源神話、マレビト神話、大国主命の国作り神話、母系的祖先崇拜などに、又、『釈日本紀』所引の『備後国風土記逸文』にある疫隅社の縁起や、『伊呂波字類抄』、『簠簋内伝』での蘇民将来の説話等、その証であろう。〔Fig-3〕

(3) 神道の二つの観念

① 水平思考

神・あるいは神か人間かの表像の明白でない存在・死者・祖先・妖怪・霊魂などが時を定めて此（は）の国、海の彼方、死者の国、常世の国などから人間の世界、村を訪ねきて、村人を寿ぎ、村人に迎え祭られて帰っていく。

② 垂直思考

神は天上にあって、天上から人間界へ降臨するときは、山の峰、森、あるいは樹の梢に降りてくる。又、死者は地下の国（黄泉）へと下り行く。

この属性として、依代・招代の観念

祭事における榊、神木等の重要性

祭のたびごとに、聖地に^{ひもろぎ}神籬・^{いわさか}磐境のシンボルを設け、神の降臨を乞う。



神社の発生

神は、彼岸あるいは、常世から人里に旅をしてくる。

神社は、この神の旅所であって、神輿や神馬は神の動座と考える。

(4) 神とは何か

①自然物の神格化： 日・月・風・水・山・川・草・木

②人間に神性を見出したもの： 偉人、英雄、長上など実在する人間

以上のように分類できるが、その他次のような諸説もある。

○「かみ」ー上の儀で目上、長上ー賀茂真淵

○何であれ、世の常でなく優れた徳があつて

可畏（かしこ）いもの「かみ」― 本居宣長

- 「か」はかぐわしいと同義 } 「かみ」はかぐわしき身の意
- 「み」は身
- 「か」は接頭語 } 太陽崇拜より発した語
- 「み」は「ひ」の転化＝太陽

(5) 聖と俗

定住農耕生活のはじまりは、大自然の威力を目の前にし、人々は自然を人間以上のもの、つまり神化し、これに乞い、怖れ、感謝の祈りを捧げた。

そして、稲作（米）は、単なる技術（食物）の問題ではなく、信仰的要素が大きく日本のバックボーンになっていると考える。

さて、この時代（2～3世紀頃より）に発達した稲作儀礼、年中行事は、一年間の折り目ごとに、静かに忌み慎み、家ごとに神を祭り、神供を設けて、神と人と相共にして成立して来た。

この「聖と俗」の二つの区別、観念は、他民族に比して、日本人は顕著であり、日本文化特性の一つであろう。我々の生活の中では、「ハレ（晴）」と「ケ（褻）」の区別として衣服や食物にまで見受けられる。

【5】まとめ

インターネット社会、情報犯罪、神道について述べてきたが、インターネット社会はパソコンと人とのコミュニケーション社会であるとの観点から、パソコンと人と神との関係を考察する。

- (1) パソコンと人： パソコンと、それを扱う人間とは二人一体の関係とみることができる。人がパソコンに問いかける（アクセス）、パソコンが応答（レスポンス）する、次にパソコンが問いかけ、人が答えるという、コミュニケーションがなされているからである。

ここで重要なのは、そのコミュニケーションしている者（人間）が善であれば、その相手（パソコン）も投影されて善となり、また、パソコンが善であれば、その投影が人間に善を与える。逆に取り扱う人間が悪であれば、パソコンも悪になろう。そして、一台のパソコンの向こうに無数のパソコンが、国内外の企業をはじめ個人らに結ばれているのである。したがって、パソコンが心ない人間により、悪に染まったならば、その一台に止まらず多くのパソコンが悪になり、その相手たる者（人間）に危害を加えることになる。つまり、コンピュータ犯罪やウイルス感染の元凶となる。

- (2) 神とパソコン： [4] - (3), - (4), - (5)より推し量れば、神＝「聖なるもの」であり、人間の扱うパソコン＝「俗なるもの」ということになる。しかしながら、原田敏明先生および真弓常忠先生による「神道では、神々は自然、山や森や木や岩や石に内在していることで信仰されているが、同時にあらゆる存在にも神性を認める考え方のあることを知っている。ことに社会生活に密接に関わるものは村の祭祀の対象とされた。鏡、玉、剣はもとより、鈴、鉦、弓矢、あるいは鋤・鍬を神体とした神社もある。道具をも神として祭ったのである。日本人にとっては生命の根源である稲作りの道具である鋤・鍬も俗なるものとはいえ、そこに神性を認め、神として祭るべき対象（聖なるもの）としたのである。」

のように、現代の社会生活に必要な不可欠でしかも重要なものとなりつつあるパソコンは、古代に鋤や鍬が神体となりえたごとく、神性化しても全く差し支えないのではない。さらに、パソコンが古代社会にあったならば、それが有する機能の威力たるやまさに神として人々の眼に映ったに違いない。

そのように考えると、パソコン＝「俗なるモノ」から、パソコン（の機能）＝「聖なるもの＝神性化」への転化は自然な成り行きであろう。

この神格化したものを「機能神」としたい。

- (3) 旅所としてのパソコン： 先に、インターネットの社会は、人とパソコンとがコミュニケーションしていると論じた。そして、そのコミュニケーションは情報として行われ、情報はデータより成り立ち、データは電子という形をとって移動する。

すなわち、インターネット社会は、パソコンを拠点として情報を電子に乗せて、パソコンを介して自由自在にどこへでも運ぶことができるといえる。

- (4) 機能神としてのパソコンと人

パソコン（の機能）＝聖なるもの＝神格化＝機能神

パソコン（の機能）＝インターネットを情報としてコミュニケーション
＝パソコンとパソコン間を電子が移動

よって、「情報（神）が電子（動座）にのって移動（旅）し、目的のパソコン（御旅所）にやってくる。」と、解釈できるのではなかろうか。

又、パソコンとそれを扱う人間とは二人一体の関係であるから、お互いの属性が投影し合うことをすでに述べた。このようなことから、パソコンを利用する度に、神様により操作する者の心を祓い清めて、善なる良心を喚起するというのは理に適っている。『パソコン祇園御守 2000』では、初めにお祓いの場面があり、神様の降臨を演出し、また、おみくじの形で日々の生活に指針を与える。これによって、扱う人とパソコンとの対話ができるのは有り難いことである。〔F i g - 4〕

〔6〕おわりに

世情は、インターネットという新しい体制の社会が起こす様々な現象や予期せぬ問題の発生に、翻弄されているといっても過言ではない。その煩わしさが嫌だというならば、文明社会を離れ神代の社会にタイムスリップするしかなかろう。それができないとなれば、このインターネット社会の宿命ともいえるべき情報犯罪とは常時直面せざるを得ない。

本論では、「インターネット社会とは、高度に情報化された社会」と定義しつつも、「インターネット社会は、パソコンと人間とのコミュニケーションの社会」であるとの実感、認識の下に『パソコン祇園御守』が「神道」の観念に全く矛盾せず、情報犯罪の防止に有効な要素を含んだ手立であることを提示した。

ここに改めて次の一文を以て結語とする。

古来、人は自然界とともに在り、自分たちの力では如何ともし難い、どうにもならないことを知る（悟る）——人知の及ばざる業——時、自然（神）への畏敬の念が日々の生活にみられた。『人々は、危機が身に及ばぬ時は、神を忘れひとたび危機が迫ると神にとりすがる。そして危機から救われた直後は、神を崇め感謝を捧げる。

しかし、やがて神は、人々より忘れ去られる。』

〔図 表〕

〔F i g - 1〕 インターネット社会の特異性

〔F i g - 2〕 ①従来の社会活動 ②サイバースペースでの社会活動

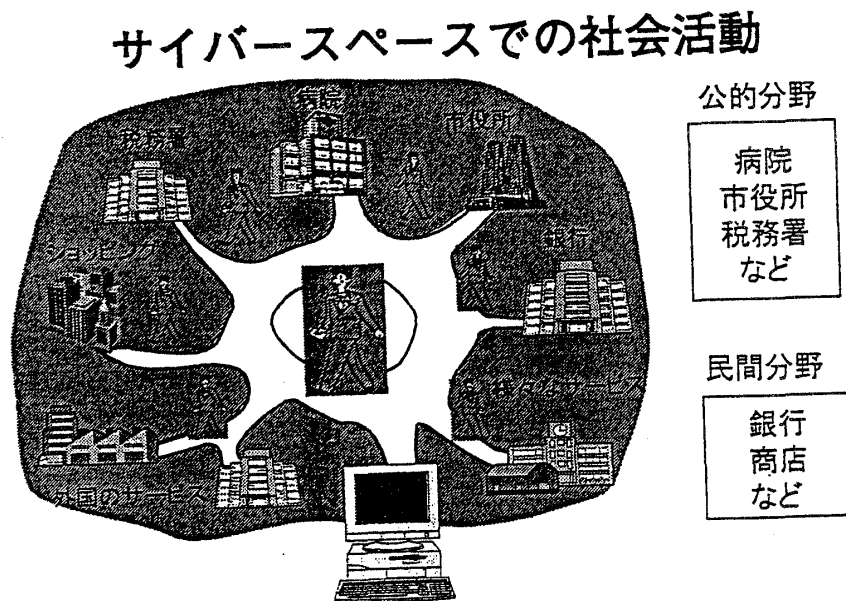
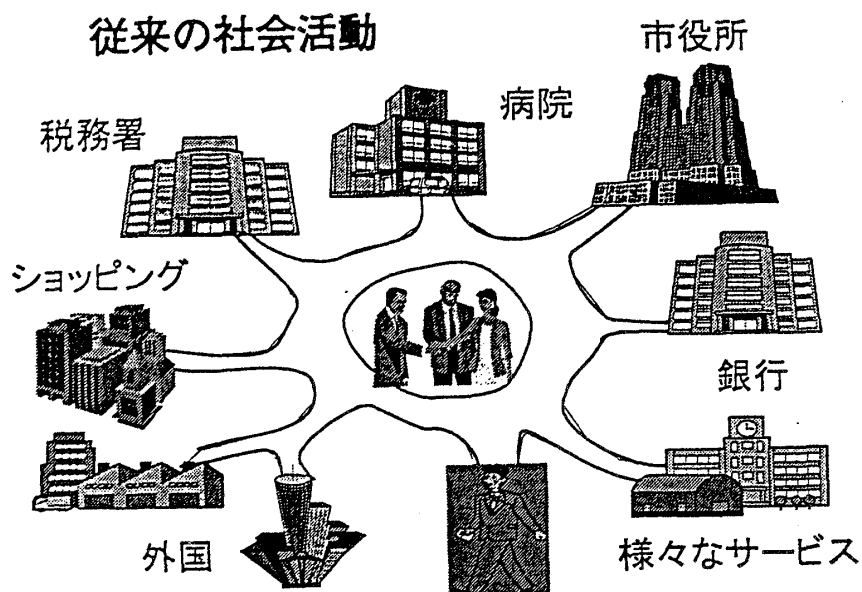
〔F i g - 3〕 大国主命と少彦名命（日本書紀）

〔F i g - 4〕 パソコン祇園御守 2000（CD-ROM）概要

〔F i g - 1〕 インターネット社会の特異性

	社会形態	設定	主 体	状 態	特 徴
①	行く (顔がある)	現 実	人間 (実体)	居合せる (身体)	1 : 1 フェイス⇔フェイス
②	来る (顔がない)	仮 想	記号 (代理)	空間上 (メディア)	1 : 多数 解放性 匿名性 ⇒多重人格

〔F i g - 2〕 ①従来の社会活動 ②サイバースペースでの社会活動



〔F i g - 4〕 パソコン祇園御守 2000 (CD-ROM) 概要

CD-ROM パソコン祇園御守 2000 (平成12年度版) の内容について

【1】CD-ROMを立ち上げると以下のような流れでプログラムが進みます。それに従い別紙のような画像が順番に出てきます。

1. 別紙A…数秒表示され、自動的に次の画面に移る。(黒い部分がAで、下の青い画面はデスクトップが見えているだけでCDの内容とは関係ありません。)
 2. 別紙B…数秒表示され、自動的に次の画面に移る。(黒い部分がAで、下の青い画面はデスクトップが見えているだけでCDの内容とは関係ありません。)
 3. 別紙C…スナノヲミコト様の絵が数秒表示され、次の画面に移る。
 4. 別紙D…文字が順に表示される動画です。数秒で終わり次の画面に移る。
 5. 別紙E…八坂神社の写真が数秒表示され、次の画面に移る。
- <神社境内の各写真が30パターンほどめぐるしく表示され、次の画面で止まる>
6. 別紙F…参拝・おみくじ・お祓い・祭神・年間行事・インターネットHPリンク・終を遊ぶメニュー画面が表示され、音楽が奏でられる。静止画像で、下の赤字の各メニューをクリックすると、その画面に移る。右上の日付と大安・先勝などの文字は毎日自動的に変わる。

【2】別紙Fの画面では、下の各メニューから見たい画面に進むことが出来る。それぞれの内容についての説明は下記の通り。

参拝 をクリックすると、…約30秒

1. 境内から拝殿に向かって進んでいく画像 (動画)
 2. 拝殿の前に鈴が表示される (別紙G) ので、マウスで鈴をクリックすると鈴が鳴る (鈴の音がする)。
 3. 拝殿の前の写真に手が現れ、5円玉をお賽銭に入れる。(お金が入る音がする)
 4. 画面が2回、足元に向かって (下に向かって) 揺れる。(2礼の意味)
 5. 画面に手が現れ、2回拍手を打つ (パンパンという音)。… (2拍手の意味)
 6. 画面が1回下へ揺れる。(1礼の意味)
 7. 自動的にメニュー画面に戻る。
- ※ 一連の流れは動画だが、鈴が出てくる画面は止まり、鈴をクリックして鈴を鳴らすことで次の流れに入る。

おみくじ をクリックすると、…おみくじを読む時間を入れなければ約30秒

1. 別紙Hの画面が出る。左のおみくじをクリックすると「恋愛」、右をクリックすると「運勢」のおみくじが出る。(マウスが左にあるため、右の「運勢」という文字は別紙Hでは映っていませんが、右のおみくじにマウスを合わせると表示されます。)
2. 「恋愛」か「運勢」のどちらかをクリックして、おみくじを表示させる。
3. おみくじが表示される。別紙Iは「運勢」をクリックして表示したもの。大吉の他に、吉、末吉、半吉などがあり、番号も1番から数十番まである。おみくじは画面に全部表示されないため、画面を上下にスクロールさせて読む。

※ ここまではマウスで次の指示を出さないと画面が変わらない静止画像。以下は動画。

4. 読み終わったら、画面下の「menu」をクリックすると、おみくじが縦に四つ折りにされてくつと丸められ、木の枝に結ぶ形になったとき枝の写真と合成され、(別紙J) 木に結ばれて、メニュー画面に戻る。

お祓い をクリックすると、…約15秒。祝詞を聞くこと+約60秒

1. 別紙Kが表示され、御幣が左右に5回揺られ、渡っている音も出る。(動画)
2. 御幣がお札の前に納まり画面が止まる。その時、画面左下に「menu」と「祝詞」が表示される。「menu」をクリックするとメニュー画面に戻る。

- 2-1. 「祝詞」をクリックすると別紙Lの祝詞が聞こえてくる。真に沿って文字が表示される動画。

祭神 をクリックすると、

1. 別紙Mのご祭神の説明文が表示される。(静止画像)
2. 読み終わったら「menu」をクリックするとメニュー画面に戻る。
- 2-1. 方位が見たい時は「方位」をクリックすると、別紙Nの方位図が表示される (静止画像)。

年間行事 をクリックすると、

1. 別紙Nの八坂神社年中祭典及行事が表示される (静止画像)。画面を上下にスクロールすることで12月31日までの行事が見える。お囃子の音が流れている。
2. 「menu」をクリックするとメニュー画面に戻る。

インターネットHPリンク をクリックすると、

1. インターネットが使える状態であれば、別紙Oのホームページが表示される。拝殿の写真をクリックすると、別紙P～Qの八坂神社の由緒にリンクする。この画面からも次の階層にリンク出来るが、リンク先はきりがないのでここでは印刷しない。
2. ホームページ閲覧ソフトを終了するとメニュー画面に戻る。

終 をクリックすると、…約20秒

1. 額布 (別紙R) が表示された後、別紙Sが表示され、「祇園守 2000」のソフトが全て終了する (動画)。

【注】CD-ROMから立ち上げると上記の手順で表示されますが、一度インストールを済ませるとCD-ROMを使わずにハードディスクからソフトを立ち上げることになるので、別紙A・B・Dは省略される。(インストール時に既に読み込まれているため)

※ その為、CD-ROMを使わずにハードディスクから立ち上げる際の順番は、別紙C→E→<境内の約30パターンの写真が順番に表示される>→別紙F となる。

※※ CD-ROMには上記の「祇園守 2000」の他に、「運勢」というソフトが入っている。CD-ROMからは「運勢」をクリックすると表示され、インストール後はパソコンを立ち上げると同時にウィンドウ画面上に数秒間運勢が自動的に表示されて消える。運勢はその時々で「大吉・吉・末吉」など進んでいる。

